

企業物価指数 9.7%上昇

22年前年比 40年間で最大伸び率

日本銀行が16日発表した2022年の国内企業物価指数(20年平均)1100、速報値)は前年比で9.7%上昇し、比較可能な1981年以降で最大の伸びとなった。これまで最大だった21年の4.6%を大きく更新した。エネルギー価格の上昇分を製品などの価格に転嫁する動きが広がって

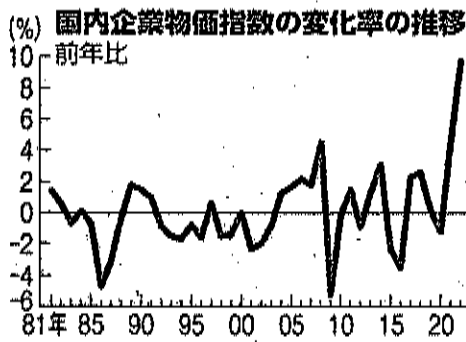
会社は、上昇した燃料費を料金にすぐに反映するわけではない。燃料費が高かった昨年7～9月の水準が、12月の料金に反映されたという。12月の「電力・都市ガス・水道」は前年同月比で52.3%の大幅な上昇となった。エネルギー価格の上昇は幅広い業界に影響し、日銀が公表している515品目中、454品目で上昇した。(久保田信暉)

いて、消費者物価が高止まりする可能性もある。企業物価指数は、企業の間で取引されるモノの価格水準を示す。指数自体も22年は114.7と、比較可能な80年以降で最高となった。

企業物価の歴史的な高騰は、足元でも収まっていな

い。日銀が同日発表した昨年12月の国内企業物価指数は前年同月比で10.2%上昇し、22カ月連続で前年同月を上回った。81年以降で最大の伸び率だった昨年9月(10.3%)に迫り、過去2番目の伸びとなった。指数は119.5で、9カ月連続で過去最高を更新した。

要因は、企業の価格転嫁の動きだ。電力会社やガス



は、足元でも収まっていな

い。日銀が同日発表した昨年12月の国内企業物価指数は前年同月比で10.2%上昇し、22カ月連続で前年同月を上回った。81年以降で最大の伸び率だった昨年9月(10.3%)に迫り、過去2番目の伸びとなった。指数は119.5で、9カ月連続で過去最高を更新した。

要因は、企業の価格転嫁の動きだ。電力会社やガス